

人材開発支援助成金 (事業展開等リスキリング支援コース) 活用事例集

人材開発支援助成金（事業展開等リスキリング支援コース）は、令和4年～8年度の期間限定の助成金として創設しました。本助成金は、新規事業の立ち上げなどの事業展開に伴い、事業主が雇用する労働者に対して新たな分野で必要となる知識及び技能を習得させるための訓練を計画に沿って実施した場合等に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部を助成する制度です。

助成率・助成限度額

経費助成率		賃金助成額（1人1時間）		1事業所1年度あたりの助成限度額
中小企業	大企業	中小企業	大企業	
75%	60%	1,000円	500円	1億円

目次

1. 事業展開に伴う訓練（P 1～P 6）

2. デジタル・DXに伴う訓練（P 7～P 15）

3. グリーン・カーボンニュートラル化に伴う訓練 (P 16～P 18)



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください。
都道府県労働局にお問い合わせください。

人材開発支援助成金 厚生労働省

検索



ひと、暮らし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

都道府県労働局・ハローワーク

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：25名

業種：運輸・郵便業（道路貨物運送業）

助成金を活用するに至った背景事情

運送業の需要減に伴い、運転技術を活用して売り上げ向上を図りたいと検討。高齢化が顕著な地域であり、高齢者の「足」となる公共交通機関の不便さに着目し、「福祉タクシー」を事業展開することとした。

事業展開の内容

第二種普通免許を取得後、運送部門と福祉タクシー部門の2部門で営業を行う。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：第二種普通免許取得
- 訓練時間：38.5時間
- 訓練内容：介護・福祉タクシードライバー養成に向けた第二種免許取得訓練

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 普通二種教習科：221,000円
(1人分、税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成
(中小企業：1,000円/h)

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：165,700円
(受講料等(受験料を含む)×75%)

2 賃金助成：31,000円(31h×1,000円)

支給総額 196,700円

訓練の効果

第二種普通免許を取得し、福祉タクシー業務を始めた。需要はまだそれほど高くないが、今後利用が増えるのではないかと見込んでいる。

今後の展開

運送業の需要が回復傾向にあり、福祉タクシーの運転手が運送部門も兼務している。今後は福祉タクシー専任運転手を育成したいため、他の従業員の第二種普通免許取得を検討している。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：10名

業種：医療・福祉（医療業）

助成金を活用するに至った背景事情

クリニック以外にも地域貢献がしたいと考え、新規事業を検討しはじめた。新たに採用した職員に必要な知識を習得してもらいたいが、外部研修の費用が高額のため助成金があると受講しやすいと考えた。

事業展開の内容

地域貢献のため、新たに児童発達支援施設を展開する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：福祉施設開所前の職員向け研修(責任者)
- 訓練時間：40時間
- 訓練内容：児童発達支援施設に配置が必要となる児童発達支援管理責任者となるための基礎研修・実践研修等を受講する。

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 職員向けの開所前研修(責任者)：
600,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：300,000円（上限）
（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：40,000円（40h×1,000円）

支給総額 340,000円

訓練の効果

高度な知識を習得させることができたうえ、助成金が受給できたことにより、浮いた予算で他の研修を受講させることができ、事業展開がスムーズに行うことができた。

今後の展開

今後も助成金を活用しながら、新規事業に参画し地域・社会貢献していきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

- 企業規模：中小企業
- 従業員数：37名
- 業種：情報通信業（情報サービス業）

助成金を活用するに至った背景事情

従来は一般的なソフトウェア開発の受託事業を行っていたが近年のアプリケーションでは、優れたUI/UXを求める要件が多くこの分野に参入出来なかった。このため自社のシステム開発者に必要な知識を身につけてもらう必要があった。
UI/UX=(ユーザーインターフェイス/ユーザーエクスペリエンス)

事業展開の内容

訓練終了3ヶ月後にUI/UXデザインチームを立ち上げ、新分野の開発業務の受注を開始する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：UI/UXデザイナー向けオープン研修
- 訓練時間：156時間+72時間(eラーニング)
- 訓練内容：デザインの基礎、ユーザー体験と価値設計、作品制作、プロデュース/ディレクション

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 UI/UXデザイナー向けオープン研修：585,112円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：438,800円

（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：156,000円（156h×1,000円）

支給総額 594,800円

訓練の効果

- ・UI/UXデザインスキルを身につけ、訓練終了後デザイン部門にUI/UXチームを発足し積極的に新分野の受注に挑む事が出来るようになった。
- ・会社としてシステム開発だけではないUI/UXデザインからトータル的にシステム提案が出来る強みを打ち出せるようになった。

今後の展開

今回得たスキルを会社の強みとし、さらなる事業展開に繋げるよう、常にトレンドをキャッチアップし、計画的に人材育成に取り組んでいきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：50名

業種：製造業（生産用機械器具製造業）

助成金を活用するに至った背景事情

昨今、製造業における若年者確保が難しく人材確保に苦戦していた。限られたヒューマンリソースの中で、現在の生産量・品質を維持し発展していくためには、個人の生産性を高める必要があると考えた。

事業展開の内容

これまで、手動による旋盤加工で製造していたが、CNC旋盤を利用した加工技術を身に着けることで、新製品を開発する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：
ターニングセンタミーリングコース
- 訓練時間：34時間
- 訓練内容：CNC旋盤のプログラミング、加工実習等の訓練

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ミーリング加工実習コース：
308,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：231,000円
（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：34,000円（34h×1,000円）

支給総額 265,000円

訓練の効果

自動旋盤加工に必要なプログラミング等の知識の習得ができた。

今後の展開

今回の訓練受講者を中心に、自動旋盤加工による生産を開始。他の従業員にも受講の機会を設け、規模拡大を計画。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

- 企業規模：中小企業
- 従業員数：100名
- 業種：製造業（輸送用機械器具製造業）

助成金を活用するに至った背景事情

以前から人材開発支援助成金を活用していたが、新規事業を立ち上げるにあたって、高助成率のコースが新設されたことを知り、活用しようと考えた。

事業展開の内容

EVシフトによって、半導体需要が増加することが見込まれるため、1年後に半導体事業を開始する予定。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：
シーケンス制御による電動機制御技術
- 訓練時間：12時間
- 訓練内容：回路設計・作成等の訓練

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 シーケンス制御による電動機制御技術講座
：11,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）
- 3 受講人数：10人

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：82,500円

（受講料等（受験料を含む）×75%×10人）

2 賃金助成：120,000円（12h×1,000円×10人）

支給総額 202,500円

訓練の効果

新規事業の立ち上げに必要な電気保全技術の習得ができた。

今後の展開

今回の訓練以外にも車両センサー等の半導体事業に必要な関連技術の訓練を実施中。訓練受講者が中心となり、年内に新たな事業を開始する予定。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：事業展開

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：18名

業種：小売業（機械器具小売業）

助成金を活用するに至った背景事情

社内DX化の推進とシステム開発事業の新規立ち上げを図りたいと考えていたところ、労働局からITスペシャリストによる事業内訓練を実施してはどうかと提案をうけた。

事業展開の内容

自社内にシステムエンジニアを養成することにより、デジタル技術を活用した業務の自動化のためのアプリ開発及びコンサルティングを行う事業を新たに立ちあげる。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：事業内訓練(部外講師)
- 受講コース：
デジタル人材育成プログラムIT導入基礎編(オーダーメイド訓練)
- 訓練時間：12時間(1.5時間×8回)
- 訓練内容：デジタルリテラシーの向上、ITコンサルタント養成、開発スキル

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 デジタル人材育成プログラムIT導入基礎編：293,220円(3名分、税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成
(中小企業：1,000円/h)

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：219,900円(3名)
(受講料等(受験料を含む)×75%)

2 賃金助成：36,000円(12h×1,000円×3名)

支給総額 255,900円

訓練の効果

ノーコードアプリ開発等の知識の習得ができ、事業展開を行っていく際に主要人員となる人材を育成することができた。

今後の展開

新事業立ち上げに向けて、より高度なスキルを習得するための訓練を実施する予定。また、訓練を受講した従業員が中心となりアイデアを出し合いながら、新事業に必要なシステム開発や営業戦略を進めていく。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：129名

業種：建設業（総合工事業）

助成金を活用するに至った背景事情

建設現場における現場技術者の書類作成業務の負担による長時間労働が課題となっていたことから、デジタル技術を活用した建設現場の書類作成支援を行うこととした。このため、当該業務に必要な知識を身につけるための訓練の受講が必要となった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

建設現場担当者以外でも作成可能な書類も多いことから、ITスキルに加えて建設業の知識を持った人材を育成し、社内の働き方改革を推進する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：建設事務担当者育成講座
- 訓練時間：24時間
- 訓練内容：建設業の書類作成等の事務に必要なIT技術（工事写真の加工やクラウドデータ管理方法等）及び施工管理手順や各種書類作成等の建設業における基礎知識の習得。

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 建設事務担当者育成講座：
1,320,000円（4人分。税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：990,000円
（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：96,000円（96h×1,000円）

支給総額 1,086,000円

訓練の効果

訓練を通じて建設事務に必要なITスキルと知識を習得したことで、建設現場の書類作成業務等を行うことが可能となり、業務効率化や生産性の向上、現場の長時間労働の是正が図られた。

今後の展開

建設現場の書類作成支援等において、訓練により習得した知識やスキルを効果的に活用し、現場支援業務を積極的に推進していく。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキリング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：53名

業種：情報通信業（情報サービス業）

助成金を活用するに至った背景事情

社内のインフラ基礎構築・運用に必要な人材の強化を進めるために、新卒者に対する研修の実施を計画していたところ、労働局から本コースの利用を勧められた。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

インフラ業務における基本知識と技術を身につけ、ネットワークの構築・運用・保守管理等の業務に従事する人材を育成する。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：新卒向けインフラ研修コース
- 訓練時間：488時間（3か月）
- 訓練内容：ITSSレベル2
ネットワークエンジニアの認定資格であるCCAN(Cisco)とMicrosoft-AZ104の取得を目指し、インフラの総合的な知識を習得する。

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 新卒研修インフラコース：900,000円
(1人分。税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成
(中小企業：1,000円/h)

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：500,000円（上限）

（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：488,000円（488h×1,000円）

支給総額 988,000円

訓練の効果

IT系大学を卒業し、一般的なコンピューター知識のある新卒者に受講させ、業務に直結した知識を習得しベンダー資格を取得させることができた。また、かなりの費用がかかるところ負担を軽減できた。

今後の展開

訓練費用の負担がかなり軽減されたため、次年度新卒者へも活用したい。また、新卒者にとどまらず、他の従業員への活用も検討中。時限措置と聞いているので、本助成制度を活用できるうちに従業員のスキルアップに活かしていきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：大企業
従業員数：200名
業種：情報通信業（通信業）

助成金を活用するに至った背景事情

悪質なサイバー攻撃の手法が多様化する現在において、社内ICT部門の強化が求められている。そのような折に労働局から人材開発支援助成金の案内が届いたので、助成金を活用することとなった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

社内の生産性向上・業務革新のためにクラウドサービスへの移行・RPAの利用・AI等の新たなデジタル技術サービスを導入し、技術面のみではなくセキュリティ面の双方からデジタル化・DX化に向けて取組む。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：ハッキング技術コース
- 訓練時間：13時間
- 訓練内容：サイバー攻撃・ハッキング等に対応するうえで必要な技術を修得し、社内ICT部門のセキュリティ対策に役立つ。

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ハッキング技術コース：99,000円（1人分。税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成（大企業：500円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：59,400円

（受講料等（受験料を含む）×60%）

2 賃金助成：6,500円（13h×500円）

支給総額 65,900円

訓練の効果

セキュリティ対策に対応可能な人材育成を行うことができ、同時に従業員の職業能力開発とモチベーション向上にもつなげることができた。

今後の展開

日々進化するIT技術へ対応し、情報通信技術のプロフェッショナルとして発展が持続可能なものとなるよう、引き続きIT人材の育成強化を図り、さらなるデジタル化・DX化に取り組む。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：大企業

従業員数：8,000名

業種：製造業（化学工業）

助成金を活用するに至った背景事情

化学業界においては新素材の研究開発において、膨大な時間がかかっていたことや、過去の実験データの有効活用ができていなかった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

データを収集・解析する仕組みの設計・実装・運用を担うデータサイエンティストを育成することで、研究開発期間の短縮、精度の向上と作業の効率化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：データサイエンティスト養成講座
- 訓練時間：140時間
- 訓練内容：データサイエンティストとして必要とされる統計学、機械学習、プログラミングなどの広範な基礎スキルの習得

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 データサイエンティスト講座
：1,007,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（大企業：500円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：250,000円（上限額）
（受講料等（受験料を含む）×60%）

2 賃金助成：70,000円（140h×500円）

支給総額 320,000円

訓練の効果

受講者がデータサイエンティストの知識習得により、研究・開発において、データの可視化・分析モデルの構築ができるようになり、市場競争力の強化に貢献することができた。

今後の展開

製品開発を行う全部門にデータサイエンティストとしてのスキルを身につけさせることで、現場課題に基づくDX化を加速していく。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業
従業員数：229名
業種：製造業（輸送用機械器具製造業）

助成金を活用するに至った背景事情

生産ライン・工程から収集するプロセスデータの分析を既存プロセスに組み込むことによる業務精度向上・効率化を実現するために、データ分析力と活用スキルをもつ人材の育成が必要となったため。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

デジタル技術を活用することにより、設備と人の効率向上を図り、生産性向上による競争力強化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部講師による事業内訓練
- 受講コース：データベーススキル向上研修
- 訓練時間：20時間
- 訓練内容：SQL知識の習得とデータベース構築スキルの習得

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 部外講師料：300,000円
(1人分。税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成
(中小企業：1,000円/h)

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：225,000円
(受講料等(受験料を含む)×75%)

2 賃金助成：20,000円(20h×1,000円)

支給総額 245,000円

訓練の効果

受講者がそれぞれの担当ラインにおけるデータ取得・蓄積から分析による課題抽出と解決に向けた活動を行うことにより、既存データの活用に加え、新たなデータ収集に向けた施策の検討等、幅広い業務への展開を行うことができた。

今後の展開

事業所内の人材育成を、対象者や目的に合わせた訓練の実施方法を選択し、計画的・効率的に進めることにより、人材育成を進めていく。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキリング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：27名

業種：建設業（総合工事業）

助成金を活用するに至った背景事情

これまで2次元図面を用いてクライアントにプレゼンを行っていたが、わかりやすさと3D-CADの普及により、クライアント先から3次元立体図面によるプレゼンを求められるようになった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

BIM/CIMを導入し、3次元モデルを活用して、建設生産・管理システム（調査・計画、設計、工事、維持管理の工程）においてより具体的なイメージをもって確認・提案作業を行えるようにして、業務効率化を目指す。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：施工BIM/CIM総合研修
- 訓練時間：20時間
- 訓練内容：i-ConstructionにおけるBIM/CIM活用の実務習得

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(大企業60%)

賃金助成 1,000円(大企業500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 施工BIM/CIM総合研修：440,000円
(220,000円×2人、税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成：1,000円/h

支給額

<OFF-JT>

- 1 経費助成：330,000円
(220,000円×75%×2人)
- 2 賃金助成：40,000円 (20h×1,000円×2人)

支給総額 370,000円

訓練の効果

従業員2名が施工BIM/CIM総合研修を受講したことにより、計画・設計段階から3次元モデルの活用が可能となったため、維持管理を前提とした設計の提案が可能となるなど、建設生産・管理システムの効率化が図られた。

今後の展開

中小企業において、効率的で質の高い建設生産・管理システムの構築は必須であり、今後も可能な限り多くの従業員に受講させたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキリング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：20名

業種：製造業（酒類製造業）

助成金を活用するに至った背景事情

食品製造部門において、温度管理の記録を今まで手書きで行っていたが、デジタルデータとして自動記録すること等により業務の効率化を図りたいと思っていたところ、訓練機関から研修の案内を受け、助成金を活用し、受講することとした。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

従業員にIoT技術を習得させ、デジタル技術の活用を進めることで、作業の効率化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：製造業のためのDXリスキリング講座
- 訓練時間：15時間
- 訓練内容：食品製造現場のデジタル化推進を目的とし、デジタル計測・自動記録等の導入のため、座学と実践を学ぶ。

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 製造業のためのDXリスキリング講座：
90,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：67,500円

（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：15,000円（15h×1,000円）

支給総額 82,500円

訓練の効果

製造部門の職員に実務的なセンサーの作成や自動記録によるデータ収集などを受講して、今後の業務にデジタル計測を導入することができ作業の効率化を図ることができる。

今後の展開

食品の温度管理を休みの日も会社に行き確認していたが、今後は、湿度が異常の場合は携帯にエラー通知がでるようにし、職員の負担を軽減していきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキリング支援コース：デジタル・DX

会社概要

- 企業規模：大企業
従業員数：210名
業種：学術研究、専門・技術サービス業（専門サービス業）

助成金を活用するに至った背景事情

測量業務における効率化及び安全・技術面の精度向上を図る目的でドローンを導入したものの、民間資格の操作資格所持者のみであったため、ドローン利用が限定的となっていたことから、利用範囲が広い国家資格の取得を進める必要があった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

国家資格を取得することで、測量業務におけるドローンの利用範囲を広げ、安全・技術面の精度の向上や付帯する事務処理作業も含めた更なる業務の効率化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：二等無人航空機操縦士コース
- 訓練時間：28時間
- 訓練内容：二等無人航空操縦士（立入管理措置を講じた上で、機体承認を受けたドローンを飛行させる場合、目視外、人又は物件から30mの距離をとらない飛行等について飛行許可・承認申請が不要となる等の資格）の取得

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ドローン講座：286,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成（大企業：500円/h）

支給額

<OFF-JT>

- 1 経費助成：171,600円（受講料等（受験料を含む）×60%）
- 2 賃金助成：14,000円（28h×500円）

支給総額 185,600円

訓練の効果

受講者が二等無人航空機操縦士の資格を取得し、業務にドローン利用範囲が広がったことにより、安全・技術面の精度の向上と共に業務の日数の削減、飛行申請関連事務処理の軽減などが進み更なる業務の効率化を図ることができた。

今後の展開

助成金利用により訓練費用の負担が軽減されたため、計画的に他の労働者の訓練実施にも取り組んでいきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキリング支援コース：デジタル・DX

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：36名

業種：建設業（設備工事業）

助成金を活用するに至った背景事情

建設業界において、人手不足の中で業務の効率化が求められ、ドローンによる測量や施工管理等が進んでいる。当社も作業効率化のために導入必須の状況となった。これまでは費用面で1名のみの受講を考えていたが複数名の受講を検討出来るようになった。

企業におけるデジタル・DXの取組内容

ドローンを導入することにより、全体的な出来栄確認等可能になることで出来形管理、工程管理の効率化を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：ドローン技能講習及び安全運航管理者講習コース
- 訓練時間：28時間
- 訓練内容：ドローンの飛行に必須となる法令の知識やドローンの機体の点検方法、シミュレーターを使うなどの飛行訓練を受講し、ドローン操縦民間資格を取得する

助成金のコース

事業展開等リスキリング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業当たり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ドローン講座：198,000円
(1人分、税込み)
- 2 訓練時間に対する賃金助成
(中小企業：1,000円/h)

支給額

<OFF-JT>

- 1 経費助成：297,000円
(受講料等(受験料を含む)×75%×2名)
- 2 賃金助成：56,000円 (28h×1,000円×2名)

支給総額 353,000円

訓練の効果

業務にドローンを導入することができたため、工事の全般的な出来栄の確認が可能となり工程管理が効率化された。また公共工事の工事成績評定で創意工夫の加点が期待できている。

今後の展開

ICT施工を進めていく上で、助成金活用によりドローン技能はもとより、その他の技能取得も検討できるようになり、業務効率化とともに計画的に人材育成に取り組んでいきたい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：グリーン・カーボンニュートラル化

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：10名

業種：農業・林業（農業）

助成金を活用するに至った背景事情

当社としてもカーボンニュートラル化の実現に向けた取組が必要であると考え、トラクターやエンジン動噴ではなくドローンによる散布を導入することとした。あわせて業務効率化、省力化を図るため、社員複数人が操縦できるようにしたいと考えた。

企業におけるGXの取組内容

農薬・肥料の散布の際に、トラクターやエンジン動噴ではなくドローンによる散布を導入することによってCO₂の排出量を削減

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：農業ドローンオペレーター
- 認定講座
- 訓練時間：38時間
- 訓練内容：農業用ドローンの操縦講習（ドローンの飛行操作、農薬散布の訓練）等

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 農業ドローンオペレーター認定講座
：220,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：165,000円

（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：38,000円（38h×1,000円）

支給総額 203,000円

訓練の効果

複数人がドローン免許を取得することで、繁忙期における労働環境の平均化ができ、社員一人一人の負担を減らすことができた。

また、従前はエンジン動噴で行っていた作業をドローン散布にすることにより、GX化の向上が図られた。

今後の展開

その他必要な資格取得時にこの制度を活用し、社員のスキルアップを支援したい。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：グリーン・カーボンニュートラル化

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：120名

業種：建設業（総合工事業）

助成金を活用するに至った背景事情

脱炭素社会の実現など、社会のニーズに対応するため、土木設計技術者である従業員にICT施工に関する必要な知識を身につけさせ、事業の効率化を図る必要があった。

企業におけるGXの取組内容

ICT施工（特にICT建機を活用した作業効率化）や持続可能な建材の積極的な活用

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：ICT施工のポイント
- 訓練時間：19時間40分
- 訓練内容：ICT施工（ドローンなどを活用した3D測量や3D測量データを利用した設計、施工計画、施工管理など）に関する技術の習得

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 ICT施工のポイント
：71,000円（1人分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成
（中小企業：1,000円/h）

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：53,200円

（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：19,600円（19.6h×1,000円）

支給総額 72,800円

訓練の効果

重機や車両の運用において、ICT建機を導入することで従前よりも効率化が図られるとともに、CO2削減の効果が期待できる。

また、環境に配慮した建材を理解し、それを実際に導入した工事事例を学んだことが、これからのGXの取り組みに繋がっている。

今後の展開

ICT施工における技術をより向上することで事業のGX化・DX化を進め、社会のニーズに応じていく予定。

人材開発支援助成金活用事例

事業展開等リスキング支援コース：グリーン・カーボンニュートラル化

会社概要

企業規模：中小企業

従業員数：70名

業種：情報通信業（映像・音声・文字情報制作業）

助成金を活用するに至った背景事情

カーボンニュートラルの意識が高まる中、当社としても温室効果ガスの排出量を低減し、かつコスト削減を図る取組を進めており、従業員に対して必要な知識をつけてもらう必要がある。

企業におけるGXの取組内容

CO₂を排出せず電力のみで空撮が可能なドローンを用いた撮影方式を社内に取り入れることで、カーボンニュートラル化と業務効率化によるコスト削減を図る。

人材開発支援助成金の活用

教育訓練の内容

- 教育訓練機関：外部教育訓練機関
- 受講コース：一等無人航空機操縦士コース
- 訓練時間：34時間
- 訓練内容：一等無人航空機操縦士の資格取得に必要な訓練（ドローンを有人地帯で目視外飛行させるのに必要な知識、技能の習得）

助成金の額（1企業あたり）

助成金の対象となる経費、賃金助成

- 1 1等無人航空機操縦士コース：342,000円（2名分、税込み）
- 2 訓練時間に対する賃金助成（中小企業：1,000円/h）

助成金のコース

事業展開等リスキング支援コース

事業展開やDX・GXに伴い新たな分野で必要となる訓練を実施した場合に、助成が受けられる訓練メニューです。

助成率・額

<OFF-JT>

経費助成 75%(60%)

賃金助成 1,000円(500円)/h

支給額

<OFF-JT>

1 経費助成：513,000円（256,500円×2名）
（受講料等（受験料を含む）×75%）

2 賃金助成：68,000円（34h×1,000円×2名）

支給総額 581,000円

訓練の効果

2022年12月に施行されたドローン飛行ライセンス制度に対応した資格を取得することで、発注者から求められるレベルの高い空撮画像の撮影、映像制作が可能になり、映像撮影・制作担当者のモチベーション向上及び業務の効率化につながった。

今後の展開

ドローンによる空撮を更に推進することで、従来のヘリコプターやセスナを用いた空撮時にかかっていた温室効果ガスの排出量の大幅な低減及び、コスト削減が実現できる予定。また、今後ドローンを活用した新たな事業展開にも繋げていきたい。